農 ～農業委員・農地利用最適化推進委員～ 地利用の最適化を目指して

新しい農業委員20人が７月20日に就任し、７月31日には市内20地区の農地利用最適化推進委員委嘱式がありました。

今後、委員の皆さんは、担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進など、「農地利用の最適化」の推進に取り組んでいきます。

▲農業委員・農地利用最適化推進委員の皆さん。詳しくは、後日発刊の「農業委員会だより」にてお知らせしますので、農地などの相談は、農業委員・農地利用最適化推進委員にお問い合わせください。

ヤ ～第22回知覧ねぷた祭～ ーヤドー！ねぷたが練り歩く

７月15日、知覧ねぷた祭が知覧まち商店街で開催。

午後７時過ぎに大小７基のねぷたが点灯されると大歓声が沸き、勇壮な武者絵を浮かび上がらせたねぷたがゆっくりと練り歩きました。太鼓や笛の囃子が響き、「ヤーヤドー」の掛け声があがると、沿道の観衆からも「ヤーヤドー」と大歓声。陽が完全に暮れると、ねぷたはいっそうきらびやかな光を放ち、観衆は祭りに酔いしれていました。

▲きらびやかな光を放ちながら知覧まち商店街を練り歩くねぷた。太鼓や笛の囃子と共に多くの観衆を魅了しました。

伝 ～川辺祇園祭～ 統の夏祭り 威勢よく厳かに

大正14年から始まったとされる川辺祇園祭が、７月23日、灼熱の太陽の下、盛大に開催されました。

商工業の発展と地域の活性化を祈願しての祭りには、町内の企業や団体が踊り連で参加し、また勇壮な男神輿、可憐な女神輿も練り歩き、祭に華を添えていました。夜には花火大会が行われ、音楽に合わせて打ち上げられるミュージック花火や感謝の気持ちを込めたメッセージ花火が、観客を魅了しました。

▲「祭」を背負い、大きなうちわを仰ぎながら神輿を担ぐ子どもたち。沿道からの水を浴び、びしょぬれになりながら祭りを盛り上げていました。

新規就農者を激励

～新規就農者励ましの会～

７月４日、南薩地域振興局ほかＪＡなどの関係機関出席のもと、新規就農者励ましの会が知覧文化会館で開催されました。塗木市長が、「若い農業者の就農は心強く、地域の期待も大きいものがある。農業に対する大きな夢と誇りを持って、多様化する消費者ニーズに対応し、柔軟な発想や創意工夫のもと、競争力のある農業経営を進めて欲しい」と、激励の言葉を贈りました。

▲南薩地域の新規就農者と関係者の皆さん。本市では 10 人が新たに就農し、うち1組の夫婦と7人の新規就農者が会に参加しました。

からくりが魅せる源平合戦

～豊玉姫神社の水車からくり～

「平家が掲げた船上の扇を、弓の名手である那須与一が馬上より矢で射抜き、源平両軍はどっと歓声を上げ与一を褒めたたえる」平安時代末期の源平合戦の場面を、７月９日と10日に公開された豊玉姫神社の水車からくりが再現しました。

ひとつの水車に連動して、多くの滑車を回し、人形を動かすからくりは、神社を訪れる多くの人を魅了し、夏の風物詩として愛されています。

▲扇の的に狙いを定め、馬上より弓を引く那須与一。作り手が試行錯誤を繰り返し調整した人形の動きが、多くの観客を魅了しました。

受け継がれた技術を守る

～高田タービン揚水施設の周辺整備～

７月17日、建造82年になる高田タービン揚水施設の周辺整備が行われました。この施設は、水の力だけを利用する揚水施設で高田地区の水田を潤すための大事な施設。珍しいタービン施設を一目見ようと見学者も多く訪れていました。整備は毎年１回梅雨明けに行われ、高田地区の水利委員や高田農地・水ネットの方々で草払いや流木・土砂の除去などに汗を流し、渇水に備えました。

▲高田地区に受け継がれるタービン揚水施設を守るため、施設周辺の整備に取り組む皆さん。

人権擁護委員を委嘱

～平石 大さん(知覧地域)～

人権擁護委員として、平石 大さんに法務大臣から委嘱がありました。委嘱を受けた平石さんは、「人権委員として命の尊さや、誰もが共に幸せに暮らせる社会になれるよう、人権啓発活動を通して微力ながら頑張っていければ」とあいさつ。市では現在９人が人権擁護委員として委嘱され、地域の皆さんからの人権相談や、問題解決の手助けのほか、人権侵害被害者の救済、人権啓発活動を行っています。

▲7月 27 日に市長室で行われた人権擁護委員委嘱式。塗木市長から委嘱状を受け取る平石 大さん（写真左）。